ひ　し　ょ　う

入学から半年 私語と三着は重点課題

飛翔

発行日
9月 8日
発行者
苫小牧市立
ウトナイ中学校
1年2組

一人ひとりが自律を意識して改善を

【入学して半年が経ち、静かだった教室も今では大変にぎやかだ。慣れてきたことで問題もでてきている。その問題について改めて考えてみたいと思う。】

私達一年生が入学して、早くも半年が経とうとしている。入学当初はシーンと静まり返っていた教室も、新たな環境に慣れて、今では"動物園"に例えられるほどにぎやかな学級になった。積極的でアクティブな印象が強い我がニ組ではあるが、その一方で問題点が露呈しているのも確かだ。

今回、学級新聞を作成するにあたり、クラスにアンケート調査を行い、我がニ組の問題点に大きくメスを入れようと考えた。そして、その問題を改善するために、一体何が必要なのかをつぶさに考えてみた。

まず、以下のアンケート調査から見て取れる一番の問題点は"私語"である。票数も群を抜いて多い。では、なぜ私語が問題なのか。二組の授業中はとても反応が良い。先生の問いかけに対してもすぐに答えが飛び交う。だが、それは挙手をせずにどんどん発言してしまうせいで、不特定多数の発言となり、場合によっては本来の質問とは全く関係ない話題にすり替わってしまう。さらには、話の収拾がつかなくなってしまうのだ。

また"私語"以外の項目で挙がったのに、"三着""忘れ物"がある。この二つはいずれも個人の意識に起因することも大切である。ところが大きいが、授業をきちんと受けるためには、第一位の"私語"と同様に克服していかなければならない問題とおえなければならない。

では、問題克服のために私達に必要なことは何だろうか。アンケート調査の結果から大多数が"私語"を挙げているということから、各々にできていない自覚はあると考えられる。授業態度点検でも同様のことが言えるだろう。であれば、各自の自覚を改善への意識へと変えていく必要がある。例えばオンとオフのけじめをつけたり、できていない場面があれば"切り替えて"と声を掛けることだろう。また、注意を受けた時には自分の名を認めて、素直に直そうとすることも大切である。

"三着""忘れ物"についても、互いに声をかけ合ったり、やりとり帳にメモをしたりといったことで改善が見こめるかもしれない。

この後、第一学年の折り返しを迎え、後半戦に突入していく。目前にはアートフェスも控えている。これまで以上に私達が成長するには、学級目標にも掲げられている"自律"を意識した生活を送ることである。そのためには、自分自身を客観的に見る視点を持ち、しっかり分析しながら日々を過ごすことがポめられる。ニ組のステップアップにむけて考えてほしいと思う。

緊急取材！コロナ禍 生活はどう変わった？

新型コロナウイルスがまん延して久しい。日本でも緊急事態宣言が発令されたり、私達の生活に与えられた影響は計り知れない。そこで、コロナ禍での生活がいかに変わったかを、改めて取材してみた。

まず取材したのは、校区内の商業施設ツルハドラックとDCMホーマックのニ所だ。それぞれが扱う商品の売り上げに、どのような変化があったのかを聞いた。

ツルハでは、マスク、消毒液、石けんといった感染症予防商品の売れ行きが好調で他にはお酒や清掃用品など、ステイホームで使用する商品が売り上げを伸ばしているそうだ。反対に売り上げが下がった商品は、風邪薬と化粧品で、感染症対策で風邪をひく人が激減したことと、ステイホームでメイクをする機会が減ったことが、その要因だと説明してくれた。また、一時期、品が続いたマスクや消毒液についても以前は爆発的なウイルスのまん延で一気に需要が高まり、供給量が追いつかなかったのが原因だということだった。現在はため買いも減少し、各店舗でも予測して発注できているため、欠品することはなくなったということだ。

ホーマックで大きく売り上げを伸ばしたのは、トレーニング用品、ガーデンファニチャー、家庭菜園に関する商品だ。コロナ禍でお家時間が増え、日常的に使用する消耗品に加え、工作やDIYに挑戦する人が増えたのではとの話もしてくれた。

休日に外出ができないとなると、家の中で過ごす時間が長くなり、そのための消費が増えることが今回の取材で明らかになった。新型コロナワクチンの接種も始まったが、このコロナ禍はまだ続きそうだ。消毒、マスクの着用、3密の回避はもち論、改めて一人ひとりの意識を高めることがポめられる。そんな中で楽しく快適に暮らせるよう、あと一歩の努力を心がけたい。

ウトナイ宣言は私たちの誇り

ついても、執行部で話し合ってアイデアを出し、各委員会と連携を取って計画を立てて

ないかを尋ねたところ、宣言を理解した上で、一人ひとりが自律を意識して生活してほ

しいと、力強く語ってくれた。

生徒会長の言葉にもあったように、校則のない本校にとって"ウトナイ宣言"は、私達の誇りともいえるものだ。しかし、宣言をしただけで、私達の生活が充実したものになることは言えないだろう。今一度、私達一人ひとりが自分を見つめ、律することがポめられている。日々の行動を意識しながら、互いに高め合っていきたいものである。

盛り上がる給食じゃんけん!

我がニ組では毎日昼に異様な盛り上がりをみせる時間がやってきます。それは給食のおかわりを巡るじゃんけんタイムです。給食で残ったメニューを食べる権利を決めるのですが、それはある意味戦いとも言えます。

じゃんけんに参加するには、十二時五十分までに食べ終えていなければならず、余っているメニューがあると知るや、希望者は急いで給食を食べます。そして、条件が揃った時に、誰からともなく"〇〇食べる人いますか"という声が挙がります。ここから戦いがスタートするのです。

すべてのメニューに希望者が名乗り出ますが、時に人気なのはデザートで、数個に十人近い希望者が殺到します。そして教室中に、じゃんけんの声が響き渡り、勝った人からは"やったー"という雄たけびが挙がります。

そもそもおかわりのじゃんけんで、なぜそんなに盛り上がるのかと思う人がいるかもしれませんが、これが二組の特徴と言えます。食欲旺盛で元気のかたまりのようなニ組では、これからも楽しいじゃんけんの戦いが続くことでしょう。

〜編集後記〜

私達が作成した壁新聞では、学校に関わる"ウトナイ宣言"や"今流行している新型コロナウイルス"など、みんなに考えてほしいと思い記事にとりあげた。大変だったのはレタリングを考えたり清書をすることだった。

一年ニ組にタイトルのアンケートを行った所、ニ組らしい前向きなタイトルが多く挙がった。そこから選んだのは"飛翔"だ。飛翔に込められた思いは、一人一人が自律し、成長してさらに上を目指して未来へ飛び立つ、ということである。タイトルにもあるように、一人ひとりが成長し、飛躍できるようなクラスになってほしいと思う。

編集長　長
編集副